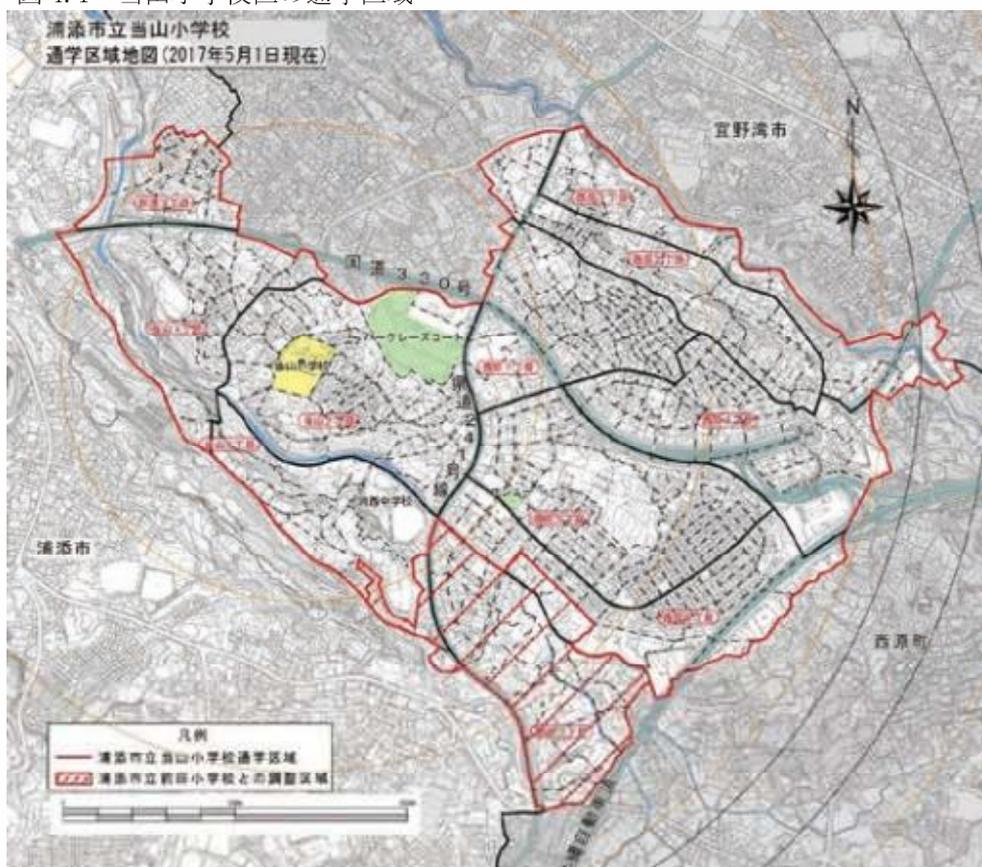


第4章 学校適正規模に関する検討

4-1 既設の通学区域の把握(当山小学校区)

当山小学校の通学区域は、当山小学校を中心に直線距離で約 1.9km 以内の範囲で構成されている。当山小学校区は市境(宜野湾市・西原町)に位置し、国道 330 号(バイパス)・県道 241 号線等の大きな道路が通学区域内を横断している。

図 4.1 当山小学校区の通学区域



※同心円は 500m 毎

表 4.1 小学校通学区域の住所(2017 年 5 月 1 日現在)

学校	通学区域
当山小学校	当 山 一丁目、二丁目、三丁目 1 番、三丁目 2 番 7 号、三丁目 4 番～14 番 西 原 一丁目、二丁目、三丁目、四丁目、五丁目、六丁目 1 番～11 番 六丁目 14 番～34 番 牧 港 三丁目 25 番～40 番
調整区域	前 田 二丁目 15 番 1 号、三丁目 西 原 六丁目 12 番～13 番 当 山 三丁目 2 番 1 号～2 号、三丁目 3 番

※調整区域については本来前田小学校へ就学しなければならないが、希望する場合は指定学校以外の選択可能学校(当山小学校)へ就学することができる。

図 4.2 当山小学校の既設の通学区域

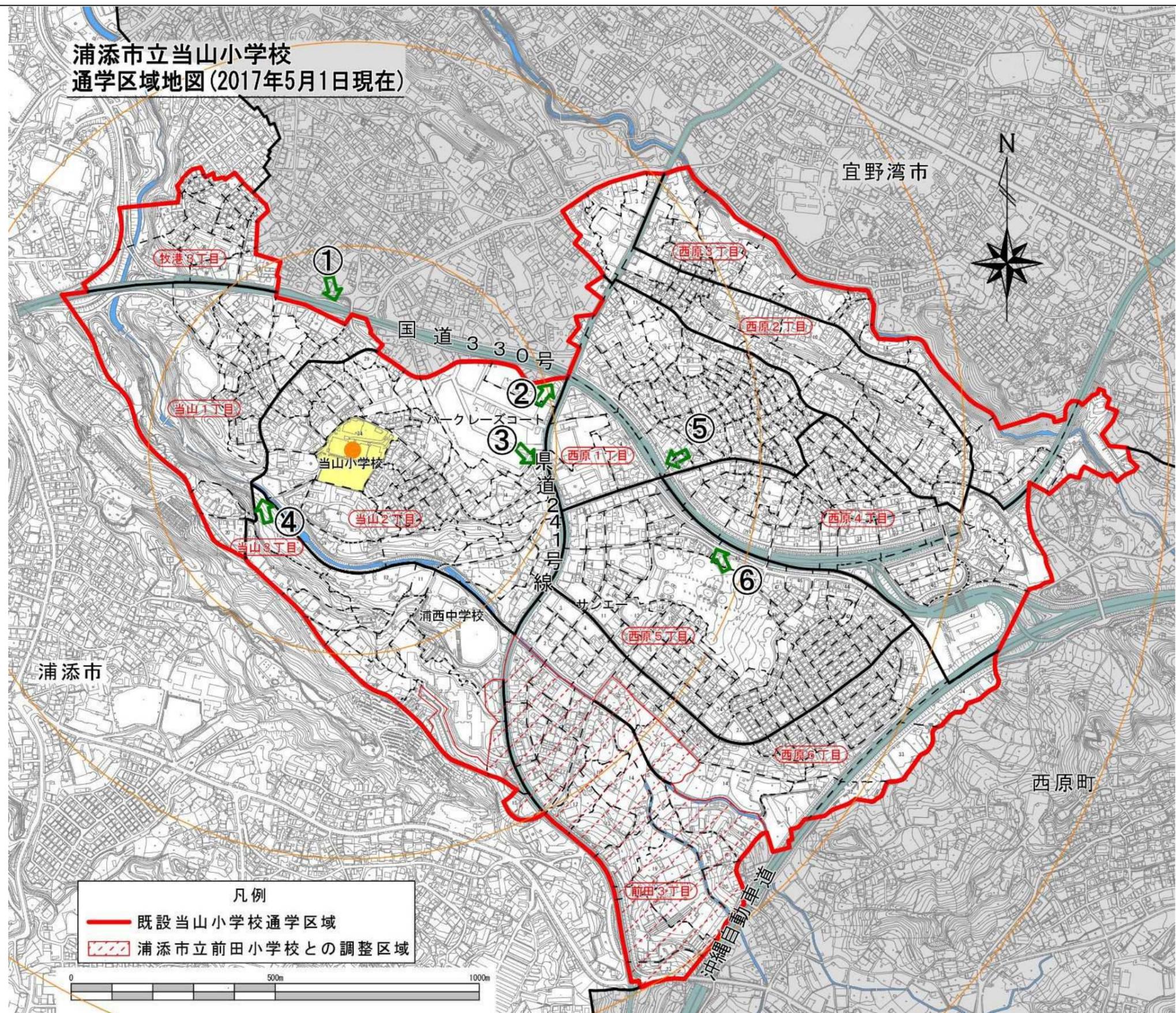
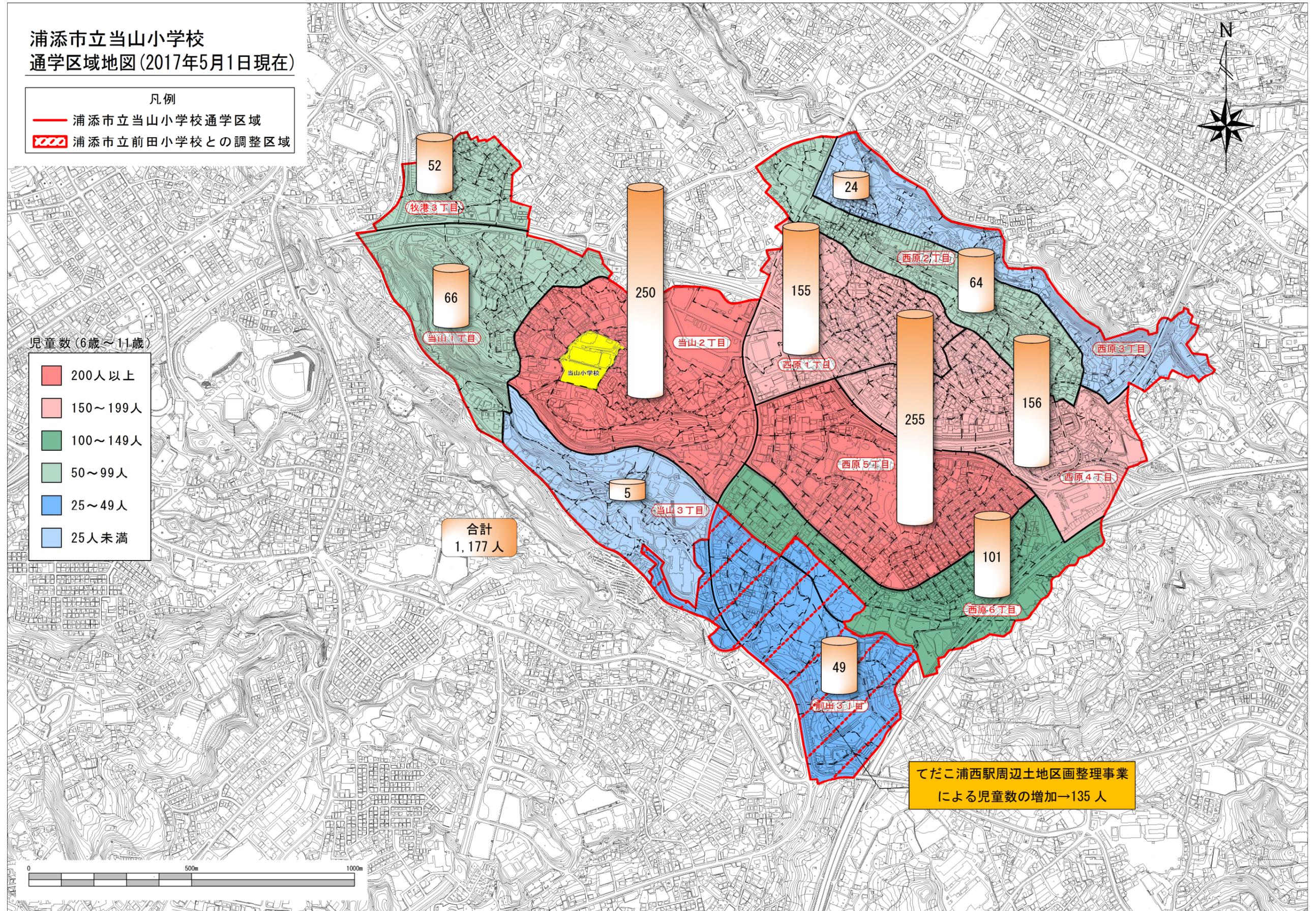


図 4.3 当山小学校通学区域内の児童人口（6～11歳）



4-2 通学区域に関する基本的な考え方

(1) 指定通学区域の法制度の規定・基準

○通学距離

文部科学省の基準では、小学校はおおむね4キロメートル以内と規定している。

(義務教育諸学校等の施設費の国庫負担等に関する法施行令第4条第1項第2号)

(2) 通学区域設定の基本的な考え方

○通学路の安全が確保されていること

○原則として、道路・河川・町字界及び地形等で区分すること

○通学距離が極端に長くないこと

○通学路が他校の通学区域を横断することを避けること

○母体校に極端に近い地域の変更をさけること

○自治会等の地域活動コミュニティとの整合性を図り、地域の実情に即したものとすること

○将来の児童数を考慮したうえで、当山小学校・分離新設校が適正規模を維持できる通学区域を提案

○分離新設校の通学区域は、前田小学校との調整区域(主に前田三丁目)を含めた検討を提案

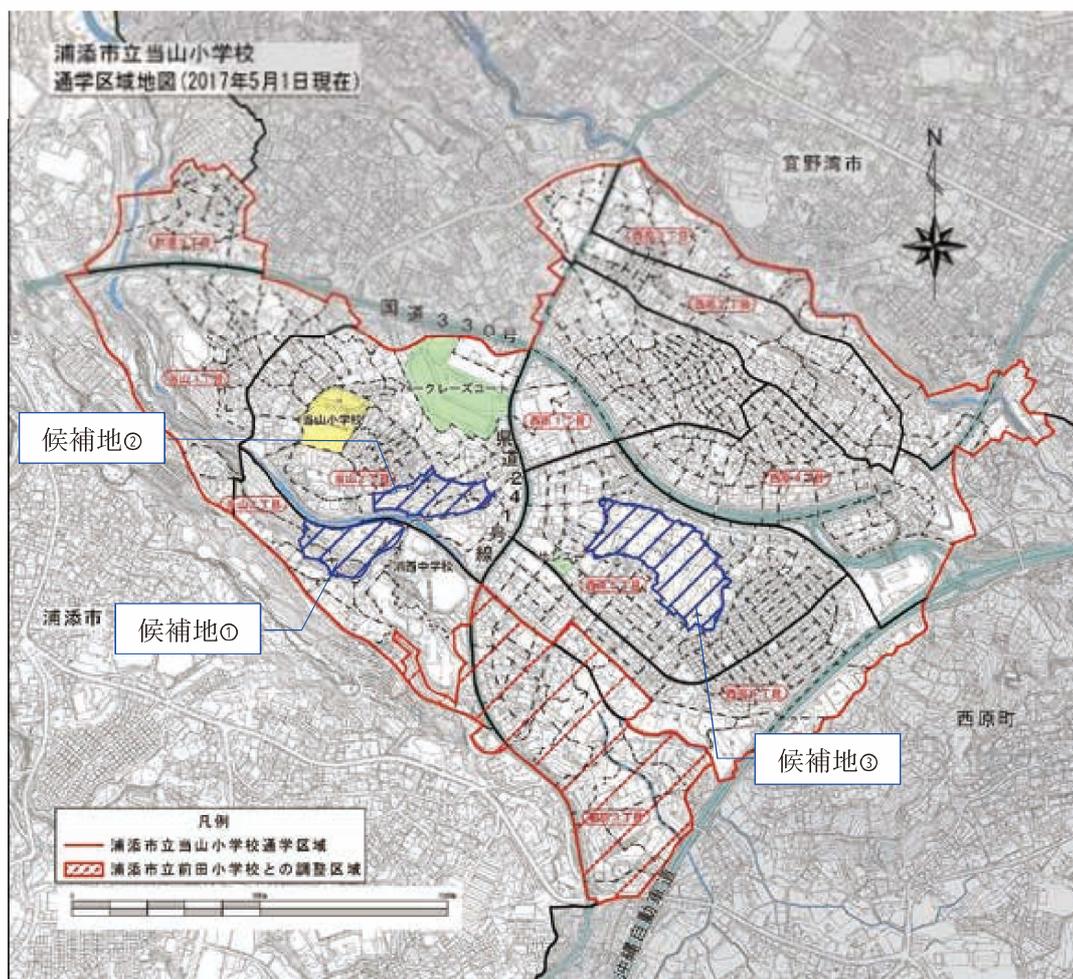
○「新たな学校建設」には、学校用地の選定や敷地造成、校舎建築等に一定期間を要し、用地取得までの状況にもよるが、概ね7～10年程度かかると見込まれるため、ここでは、7年後に分離新設校が開校するものとして通学区域を提案

(3) 分離新設校予定候補地の通学区域案

前述した通学区域設定に基づき『平成 29 年度当山小学校過大規模解消に関する基礎調査業務委託』にて選定した分離新設校の候補地①、候補地②、候補地③において通学区域案をそれぞれ 2 案提案する。このとき、候補地①と候補地②については、候補地同士が隣接しているため、通学区域案は互いに同じとする。

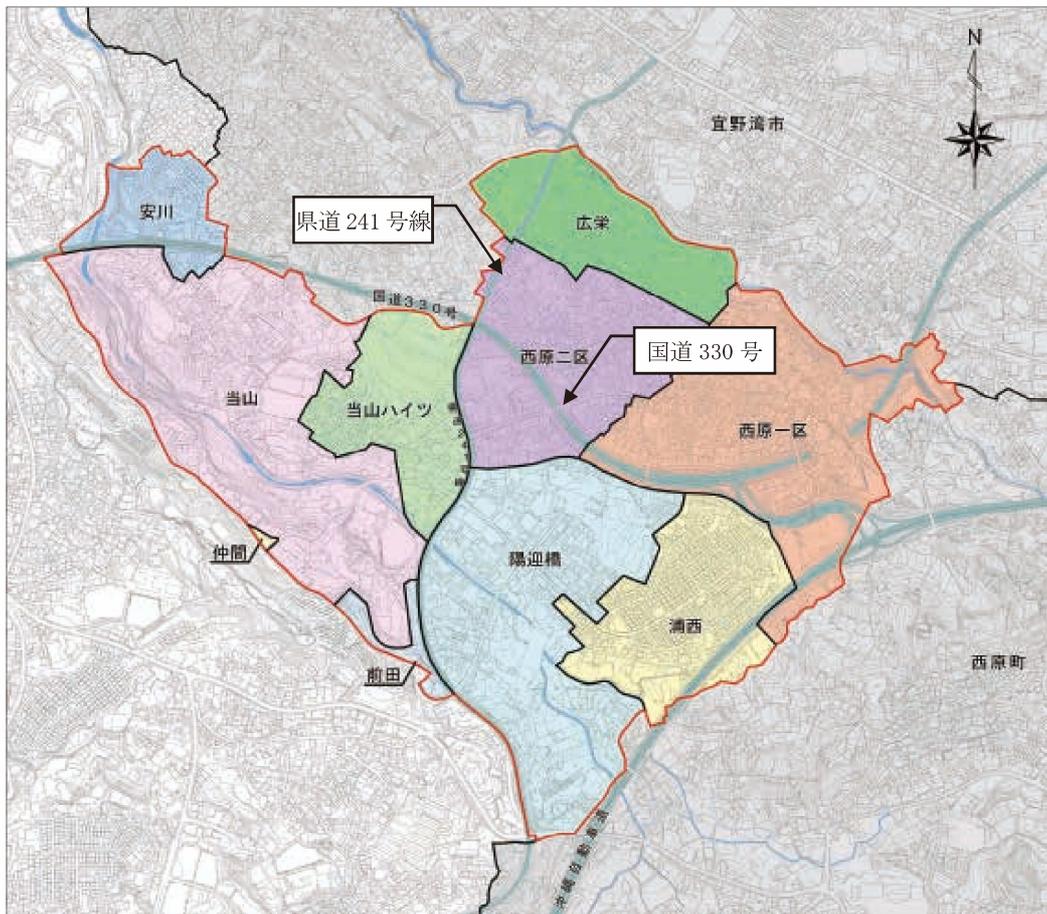
(候補地①・候補地②)×2 案、候補地③×2 案 → 計 4 案

図 4.4 分離新設校候補地の位置図



- 通学区域案A・・・当山小学校と分離新設校が適正規模を維持できる児童数が通学するという前提のもと、当山小学校の保有学級数【31】を有効利用できるよう、児童数を考慮した通学区域を提案する。
- 通学区域案B・・・当山小学校と分離新設校が適正規模を維持できる児童数が通学するという前提のもと、通学路(通学距離・道路・河川・町字界・自治会境界等)のバランスを考慮した通学区域を提案する。

図 4.5 当山小学校区内の自治会境界図



4-3 分離新設校候補地の通学区域の提案・評価

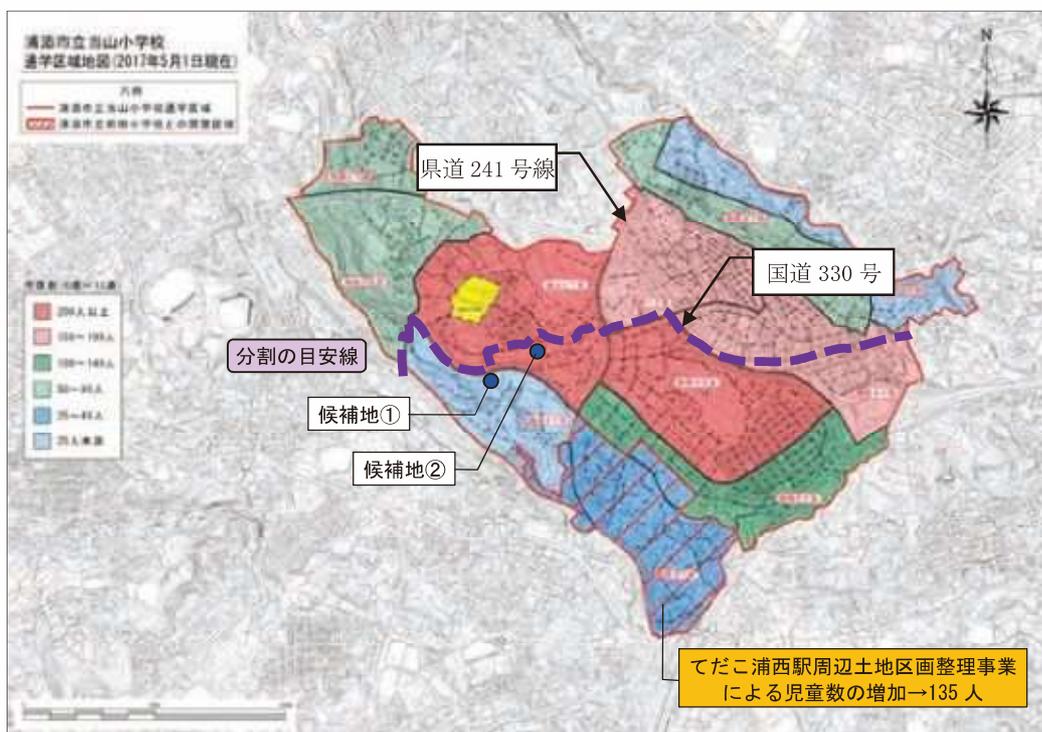
(1) 候補地①・候補地②の通学区域の検討

分離新設校候補地①・候補地②は、候補地同士が隣接しているため、通学区域案は互いに同じとする。

当山小学校と分離新設校の児童数や通学路等を考慮し通学区域の目安を設定すると図4.6に示す通りになる。分割の目安線から北側が当山小学校の通学区域、南側が分離新設校候補地の通学区域となる。

設定した通学区域の目安より、通学区域案A・通学区域案Bの2案を提示する。

図4.6 通学区域の分割の目安(候補地①・候補地②)



通学区域内の児童数の割合を以下に示す。

平成 30(2018)年の区域内児童数の割合は、約 6 : 4 (=当山小学校 : 分離新設校)

↓ 7 年後 (分離新設校が開校すると仮定)

平成 37(2025)年の区域内児童数の割合は、約 5 : 5 (=当山小学校 : 分離新設校)

↓ 13 年後 (推計期間の終了時)

平成 49(2037)年の区域内児童数の割合は、約 5 : 5 (=当山小学校 : 分離新設校)

◆通学区域の目安の設定について

○地形

- ・河川を横断しないようにする。(a)
- ・高低差があるため通学区域を分ける。(b)
- ・国道 330 号を境に通学区域を分ける。(c)

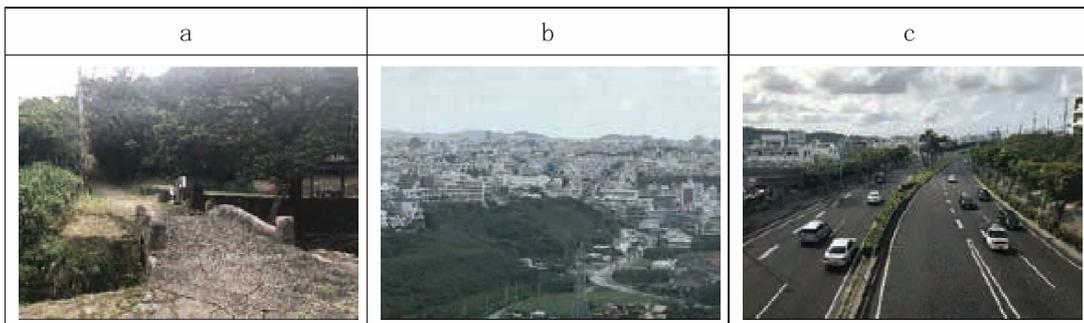
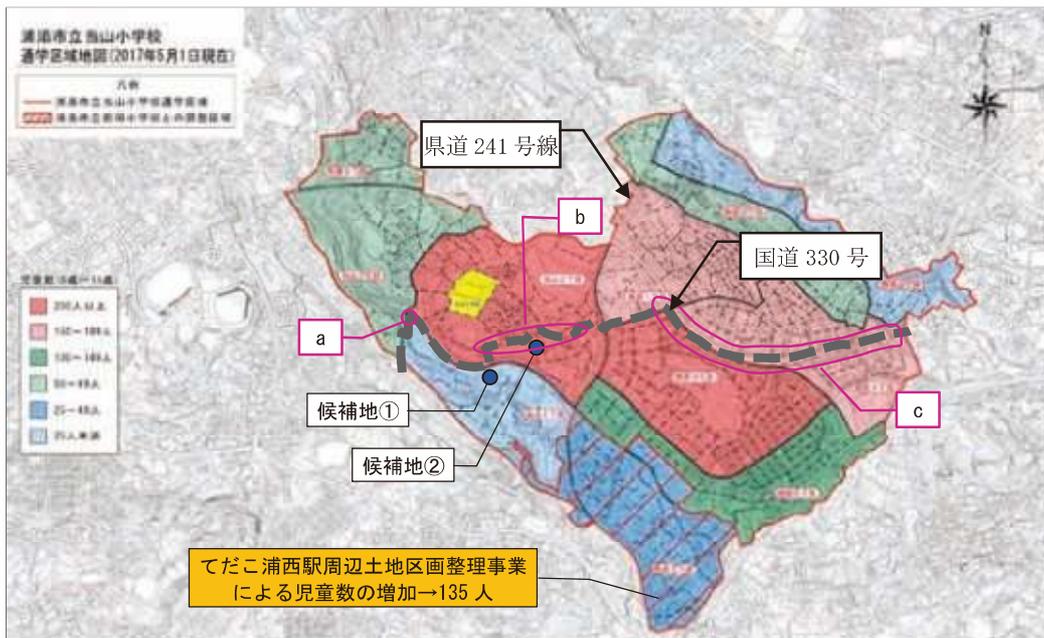
○通学路

- ・通学路が他校の通学区域を横断することを避ける。

○児童数

ただこ浦西駅周辺土地区画整理事業による児童数の増加を考慮して、当山小学校と分離新設校が適正規模を維持できる児童数を確保する。

図 4.7 通学区域の分割の目安の設定(候補地①・候補地②)



評価項目詳細表

学校規模	当山小学校
	△： 当山小学校の学校規模が、推計期間において過大規模もしくは小規模・過小規模の状態になる
	また、推計期間において適正規模の範囲内(学級数【12～18】)であっても、保有する普通教室数【31】に対して空き教室が【15】以上になる
	○： 分離新設校の開校時に、当山小学校の学級数が【17】～【25】になる(空き教室が6～14)
	◎： 分離新設校の開校時に、当山小学校の学級数が【26】～【31】になる(空き教室が5以内)
	分離新設校
	△： 分離新設校の学校規模が、推計期間において過大規模もしくは小規模・過小規模の状態になる
	○： 分離新設校の開校時に、学級数【26】～【30】となる。 ◎： 分離新設校の開校時に、学校規模が適正規模(学級数が12～18)、もしくは学級数【26】未満となる。 (浦添市内11小学校の保有する普通教室数の平均【26】)
通学区域の安全性	当山小学校
	△： 通学区域内において河川や国道330号と県道241号線の横断がある。
	○： 通学区域内において河川や国道330号もしくは、県道241号線の横断がある。
	◎： 通学区域内において河川や大きな道路(国道330号・県道241号線)の横断がない
	分離新設校
	△： 通学区域内において河川や国道330号と県道241号線の横断がある。 ○： 通学区域内において河川や国道330号もしくは、県道241号線の横断がある。 ◎： 通学区域内において河川や大きな道路(国道330号・県道241号線)の横断がない
通学距離	当山小学校
	△： 現況の通学距離と同等(直線距離で最大約1.9km)
	○： 学校を中心に通学距離が約1.3～1.8kmの範囲に収まる(直線距離)
	◎： 学校を中心に通学距離が約1.2km以内に収まる(浦添市内11小学校の直線距離平均)
	分離新設校
	△： 現況の通学距離と同等(直線距離で最大約1.9km) ○： 学校を中心に通学距離が約1.3～1.8kmの範囲に収まる(直線距離) ◎： 学校を中心に通学距離が約1.2km以内に収まる(浦添市内11小学校の直線距離平均)

候補地①・候補地②の通学区域案

通学区域案A



学級数の推計結果

当山小学校における学級数の推移

推計年	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037
	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45	H46	H47	H48	H49
通学児童数	728	721	721	719	708	707	700	672	654	636	629	598	589	581	574	569	563	559	553	549
学級総数	28	29	29	28	28	29	28	27	26	25	25	24	24	23	22	22	22	22	22	22

分離新設校における学級数の推移

推計年	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037
	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45	H46	H47	H48	H49
通学児童数	394	389	423	469	530	575	591	601	620	627	614	613	598	579	554	526	499	477	462	451
学級総数	17	16	17	19	23	22	24	25	26	25	24	24	23	21	21	21	21	21	21	19

通学区域案B



学級数の推計結果

当山小学校における学級数の推移

推計年	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037
	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45	H46	H47	H48	H49
通学児童数	687	679	673	666	649	656	646	620	607	591	588	558	551	544	538	535	530	526	521	517
学級総数	27	28	27	27	26	24	25	25	23	23	23	22	22	21	21	21	21	21	21	21

分離新設校における学級数の推移

推計年	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037
	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45	H46	H47	H48	H49
通学児童数	434	429	469	520	585	620	639	646	658	660	640	639	623	605	580	554	530	512	496	485
学級総数	18	17	19	22	23	24	25	26	26	25	25	26	25	23	22	21	21	21	21	21

評価項目	特筆事項		評価
学校規模	当山小学校	分離新設校の開校時における学級数は【27】であり、当山小学校の保有する通常学級数【31】に対して空き教室は【4】となる。	◎
	分離新設校	分離新設校の開校時における学級数は【25】となる。学校規模としては、大規模校に分類されるが、浦添市内11小学校の保有する通常学級数の平均【26】未満となる。	◎
通学区域の安全性	当山小学校	大きな道路の横断は、牧港三丁目からの通学(国道330号の横断)と西原二・三・四丁目からの通学(国道330号や県道241号線の横断)による道路の横断がある。	△
	分離新設校	大きな道路の横断は、西原五・六丁目と前田三丁目からの通学(県道241号線の横断)による道路の横断がある。	○
通学距離	当山小学校	通学区域は当山小学校を中心に約1.9kmの範囲に収まる。通学児童数の多い西原地区は当山小学校から約1kmの場所に位置している。(直線距離)	△
	分離新設校	通学区域は分離新設校を中心に約1.4km程度の範囲に収まる。通学児童数の多い西原地区は分離新設校から約0.8kmの場所に位置している。(直線距離)	○
総合評価	当山小学校の保有する普通教室数を考慮した通学区域は、西原五丁目を分断しているが、西原地区と陽迎橋地区の自治会境界である。分離新設校は当山小学校との距離が近いことによる通学距離の大きな改善はできないが、当山小学校よりも高低差が低い場所に位置するため、陽迎橋地区や浦西地区の児童は登下校の負担は減少すると想定される。		
	分離新設校は当山小学校との距離が近いことによる通学距離や安全性への改善は期待できないが、当山小学校よりも高低差が低い場所に位置するため、徒歩による登下校の負担が減ると想定される。		

図 4.8 通学区域案 A (候補地①・候補地②)

写真①



写真②



写真③



写真④

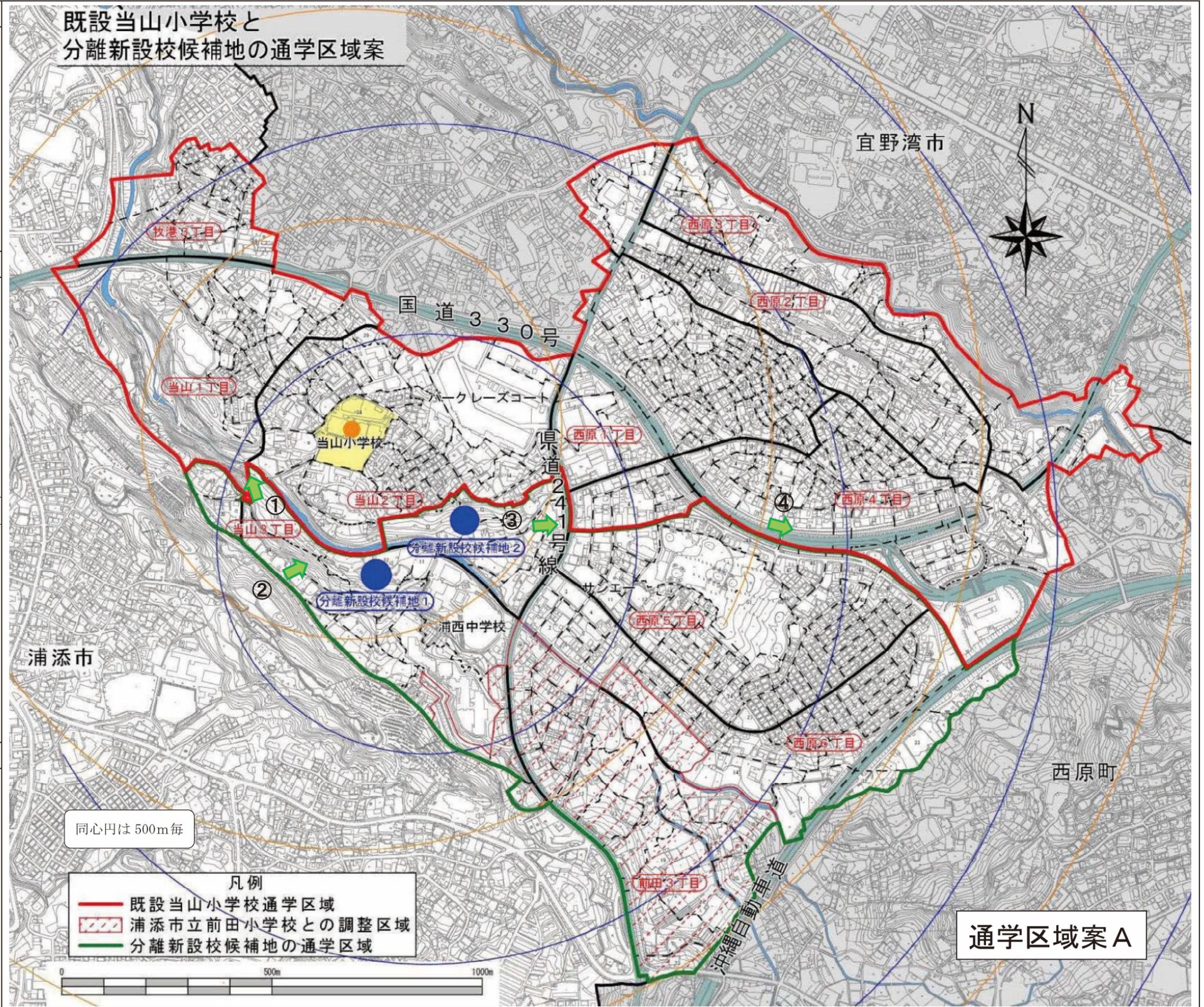


図 4.9 通学区域案B (候補地①・候補地②)

写真①



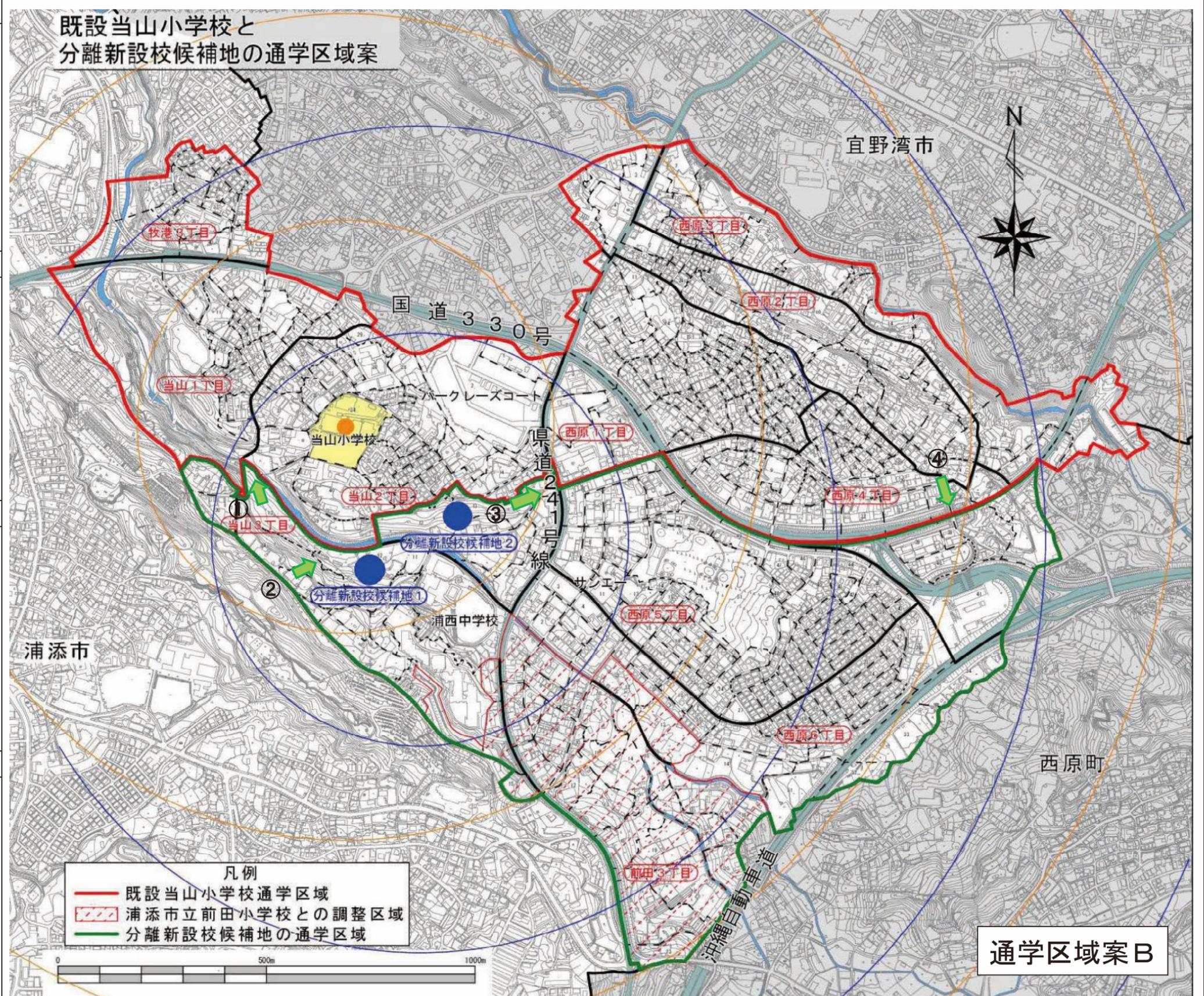
写真②



写真③



写真④

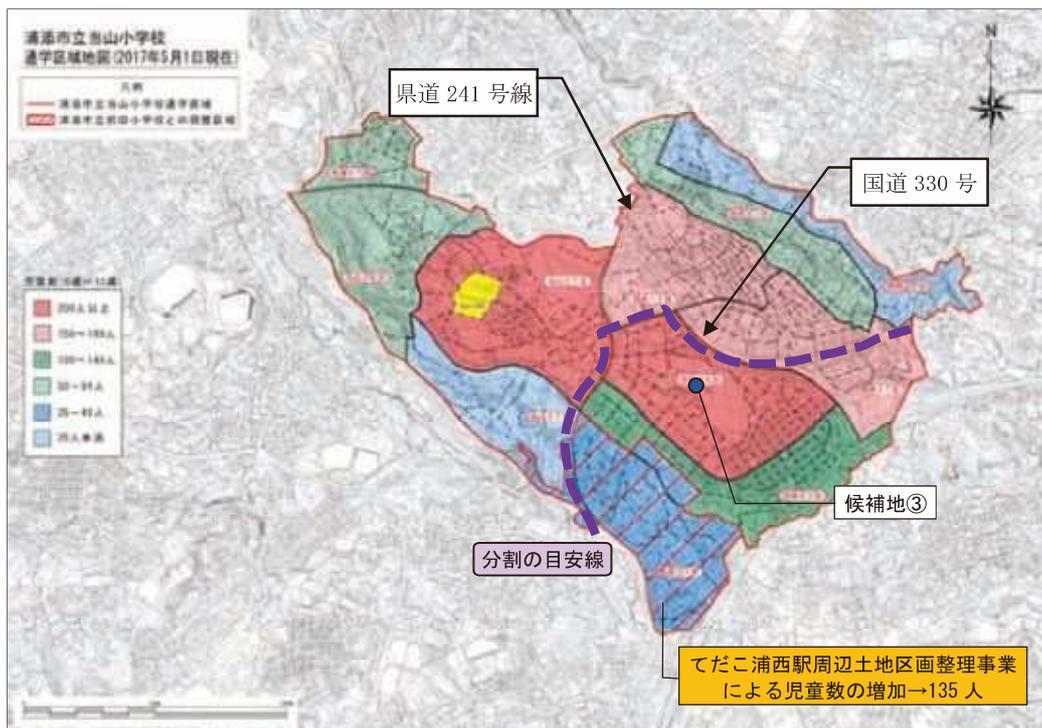


(2) 候補地③の通学区域の検討

当山小学校と分離新設校の児童数や通学路等を考慮し通学区域の目安を設定すると図4.10に示す通りになる。分割の目安線から北側が当山小学校の通学区域、南側が分離新設校候補地の通学区域となる。

設定した通学区域の目安より、通学区域案A・通学区域案Bの2案を提示する。

図4.10 通学区域の分割の目安(候補地③)



通学区域内の児童数の割合を以下に示す。

平成 30(2018)年の区域内児童数の割合は、約 6 : 4 (=当山小学校 : 分離新設校)

↓ 7年後(分離新設校が開校すると仮定)

平成 37(2025)年の区域内児童数の割合は、約 5 : 5 (=当山小学校 : 分離新設校)

↓ 13年後(推計期間の終了時)

平成 49(2037)年の区域内児童数の割合は、約 5 : 5 (=当山小学校 : 分離新設校)

◆通学区域の目安の設定について

○地形

- ・ 県道 241 号線を境に通学区域を分ける。(a)
- ・ 道路を境に通学区域を分ける。(b)
- ・ 国道 330 号を境に通学区域を分ける。(c)

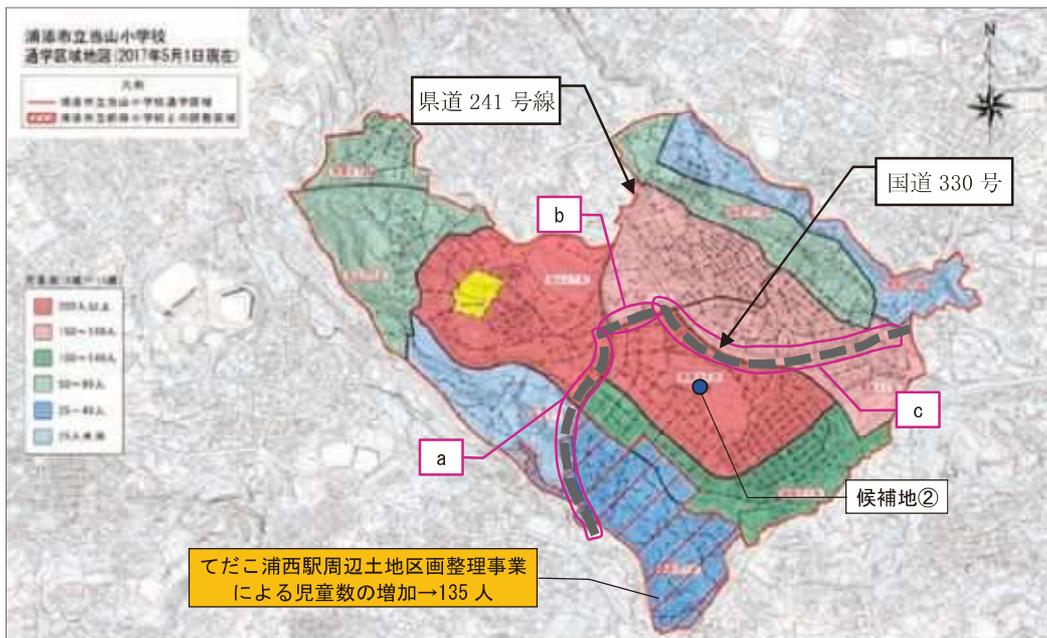
○通学路

- ・ 通学路が他校の通学区域を横断することを避ける。

○児童数

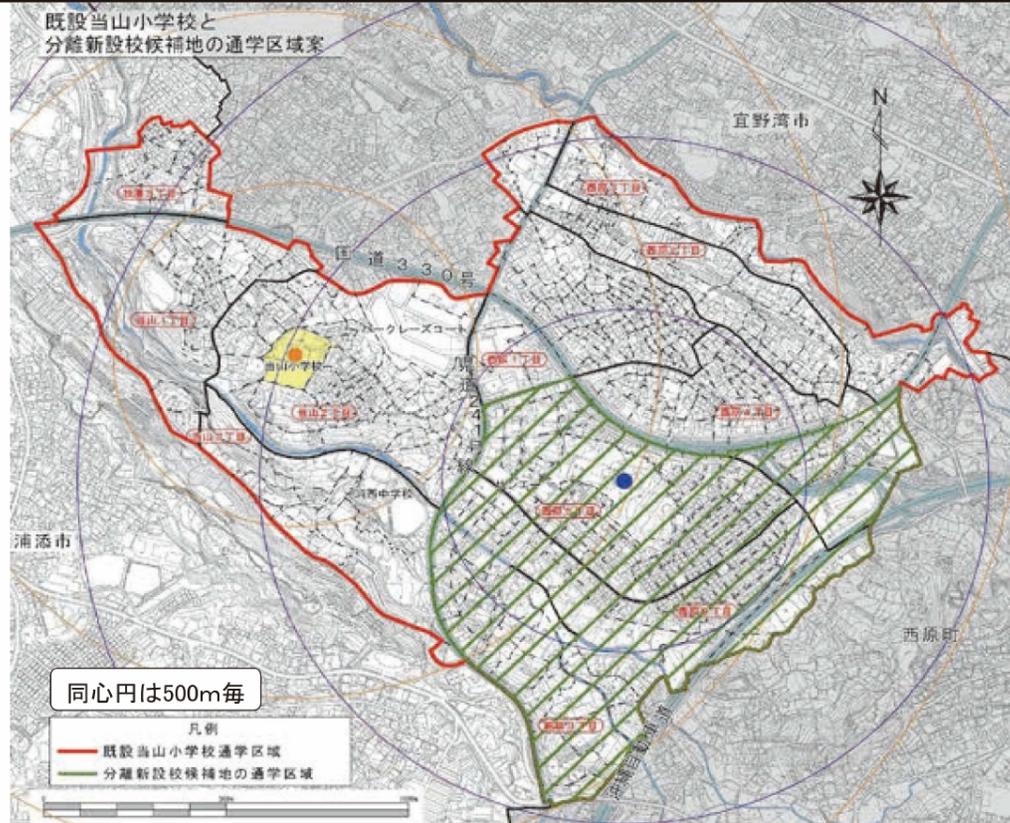
ただこ浦西駅周辺土地区画整理事業による児童数の増加を考慮して、当山小学校と分離新設校が適正規模を維持できる児童数を確保する。

図 4.11 通学区域の分割の目安の設定(候補地③)



候補地③の通学区域案

通学区域案A



学級数の推計結果

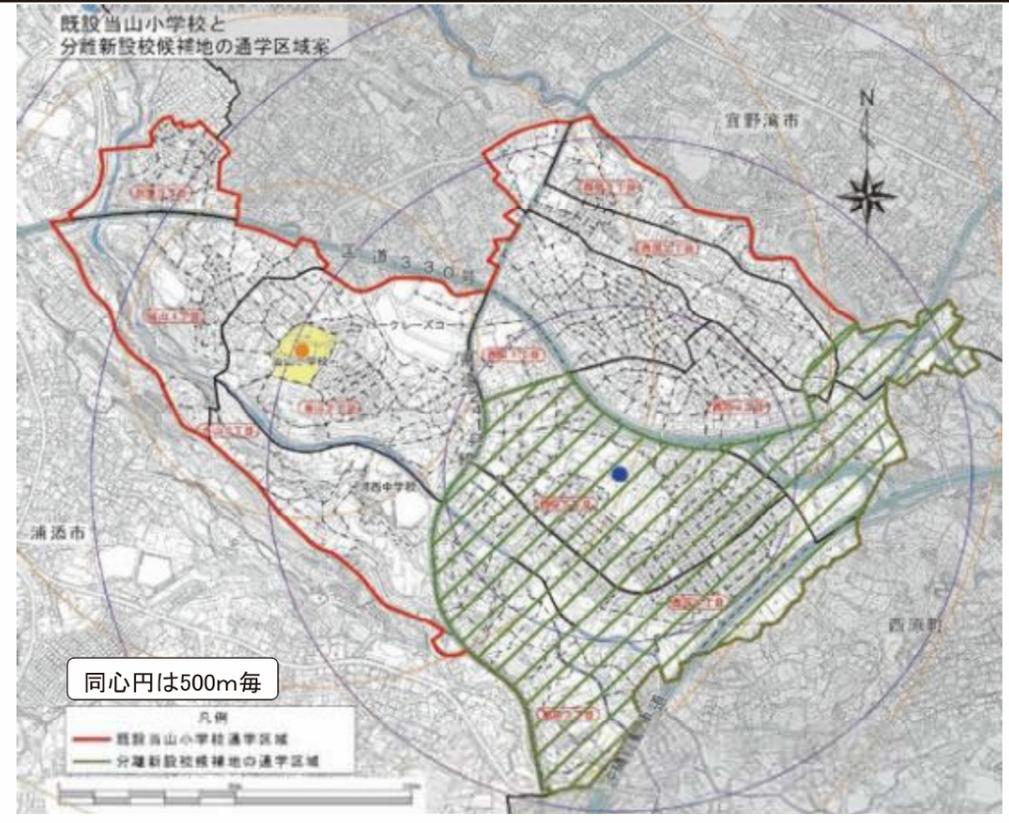
当山小学校における学級数の推移

推計年	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037
	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45	H46	H47	H48	H49
通学児童数	725	716	709	699	684	692	685	656	642	624	617	581	572	564	558	554	550	548	543	539
学級総数	27	29	28	27	27	28	28	27	26	25	25	23	22	22	22	22	22	22	22	21

分離新設校における学級数の推移

推計年	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037
	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45	H46	H47	H48	H49
通学児童数	396	392	433	487	550	584	600	610	623	627	611	616	602	585	560	535	510	490	474	463
学級総数	17	16	17	21	23	22	24	26	26	25	24	24	23	22	21	21	21	21	21	20

通学区域案B



学級数の推計結果

当山小学校における学級数の推移

推計年	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037
	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45	H46	H47	H48	H49
通学児童数	706	694	681	666	645	654	649	622	612	599	598	564	557	550	545	541	536	533	528	525
学級総数	27	28	27	27	25	25	26	25	25	23	23	22	22	22	22	21	21	21	21	21

分離新設校における学級数の推移

推計年	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037
	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45	H46	H47	H48	H49
通学児童数	415	414	461	520	589	622	636	644	653	652	630	633	617	599	573	548	524	505	489	477
学級総数	17	16	19	21	23	24	25	26	26	25	25	24	23	22	22	21	21	21	21	21

評価項目	特筆事項		評価
学校規模	当山小学校	分離新設校の開校時における学級数は【27】であり、当山小学校の保有する通常学級数【31】に対して空き教室は【4】となる。	◎
	分離新設校	分離新設校の開校時における学級数は【25】となり、大規模校に分類される。また、浦添市内11小学校の保有する通常学級数の平均【26】より1学級少ない。	○
通学区域の安全性	当山小学校	大きな道路の横断は、牧港三丁目からの通学(国道330号の横断)と西原二・三・四丁目からの通学(国道330号や県道241号線の横断)による道路の横断がある。	△
	分離新設校	国道330号や県道241号線などの大きな道路を横断することなく登校できるため、比較的安全である。	◎
通学距離	当山小学校	通学区域は当山小学校を中心に約1.9kmの範囲に収まる。通学児童数の多い西原地区は当山小学校から約1kmの場所に位置している。(直線距離)	△
	分離新設校	通学区域は分離新設校を中心に約1km以内の範囲に収まる。また、通学児童数の多い西原地区は分離新設校から約0.4kmの場所に位置している。(直線距離)	◎
総合評価	分離新設校の通学区域内では大きな道路が横断することが無いため、通学路の安全は確保される。また、分離新設校を中心に1km以内で通学区域が収まるため通学距離は改善される。		
	通学区域のバランスを考慮した場合、当山小学校の通学距離は、最長距離が約1.9kmから約1.6kmに改善される。一方、当山小学校への通学児童数が減り、(通学区域案Aと比較すると)当山小学校の教室の空きが多くなる。		

図 4.12 通学区域案 A (候補地③)

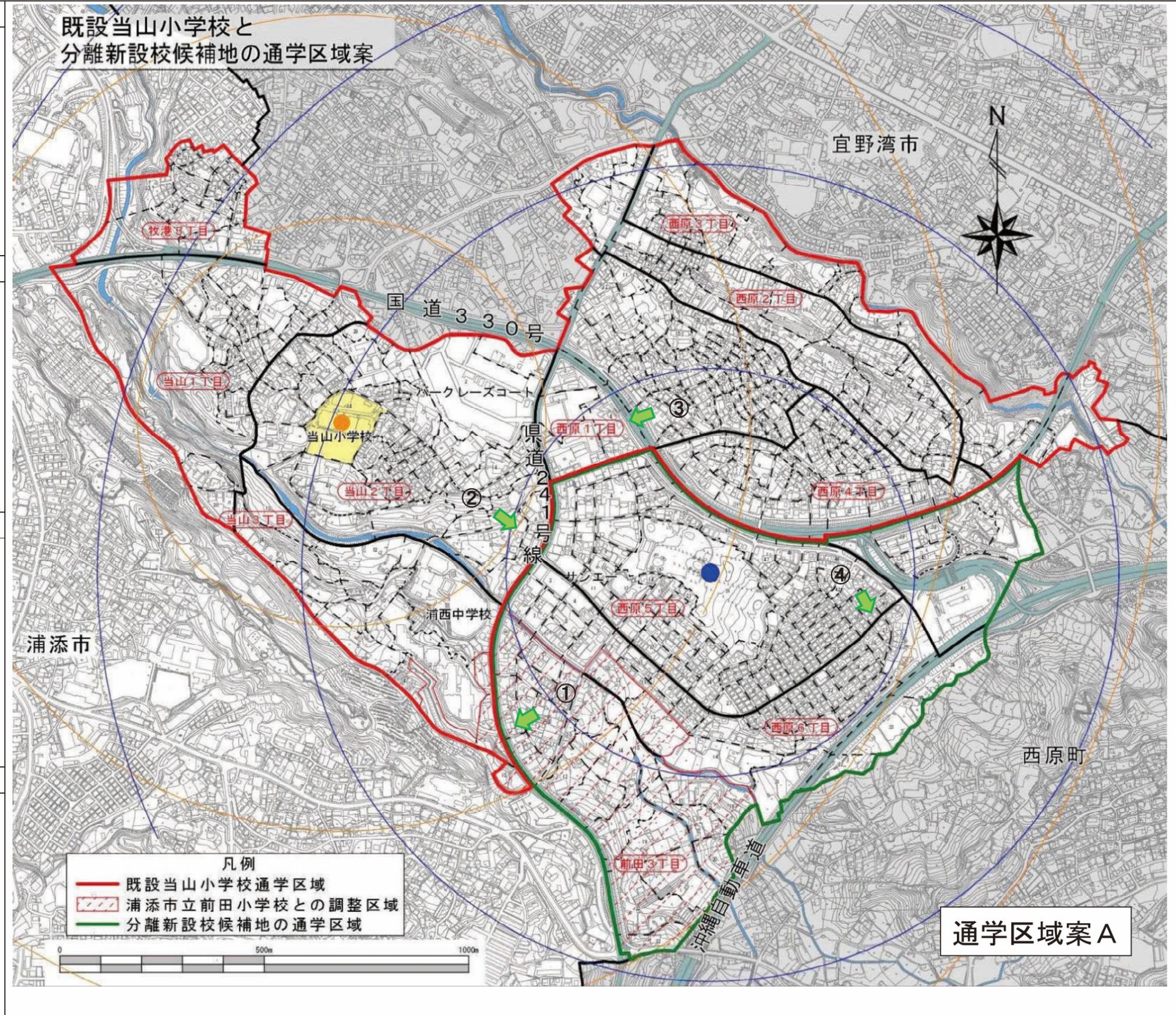
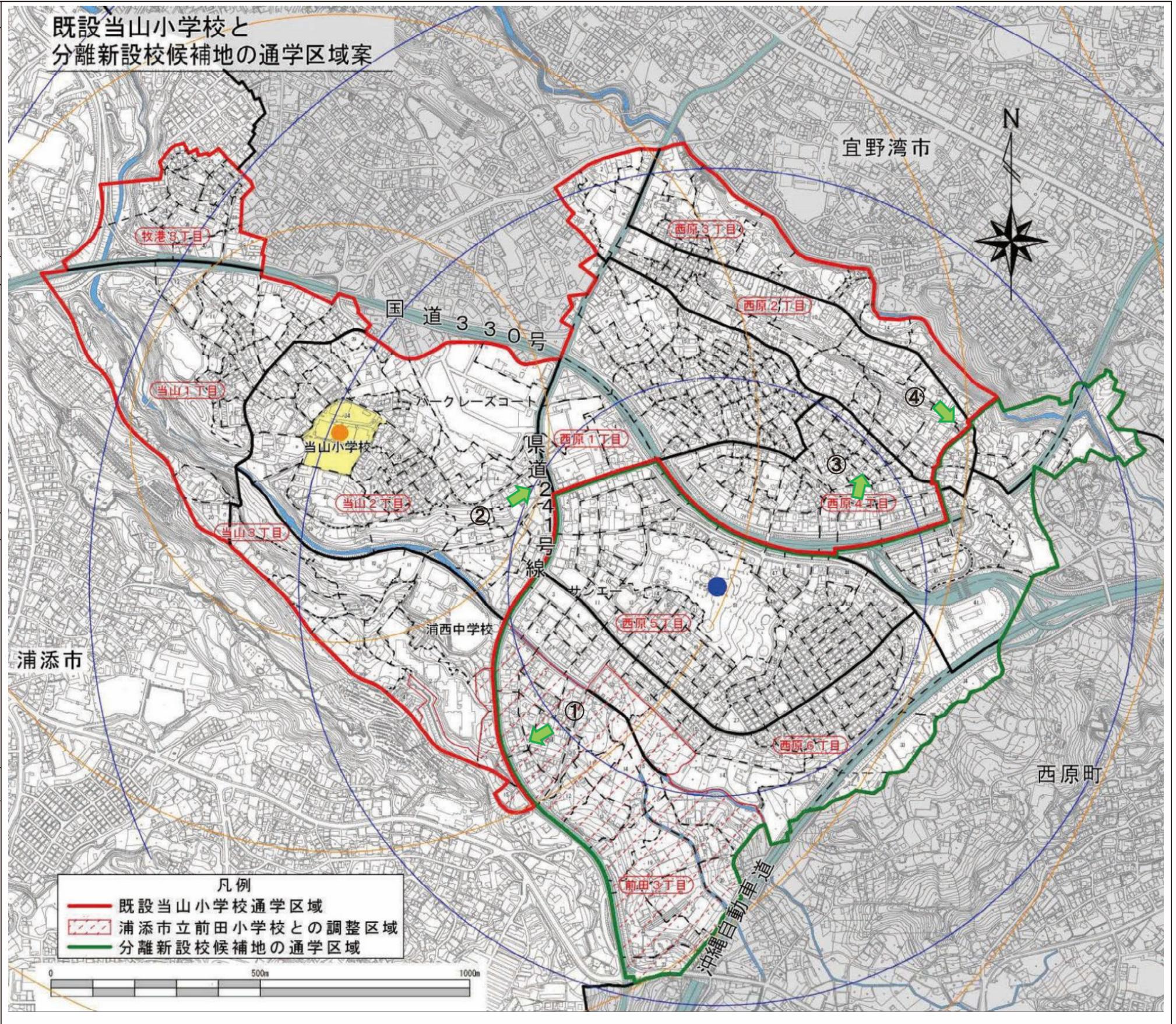
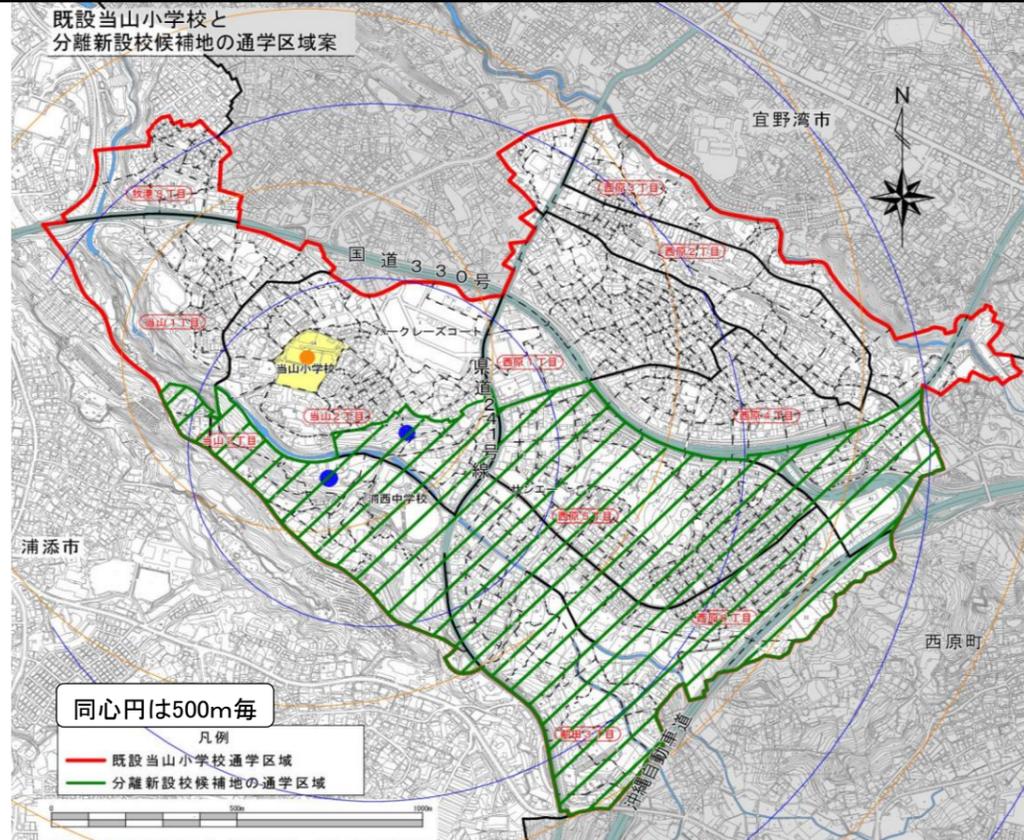


図 4.13 通学区域案B (候補地③)

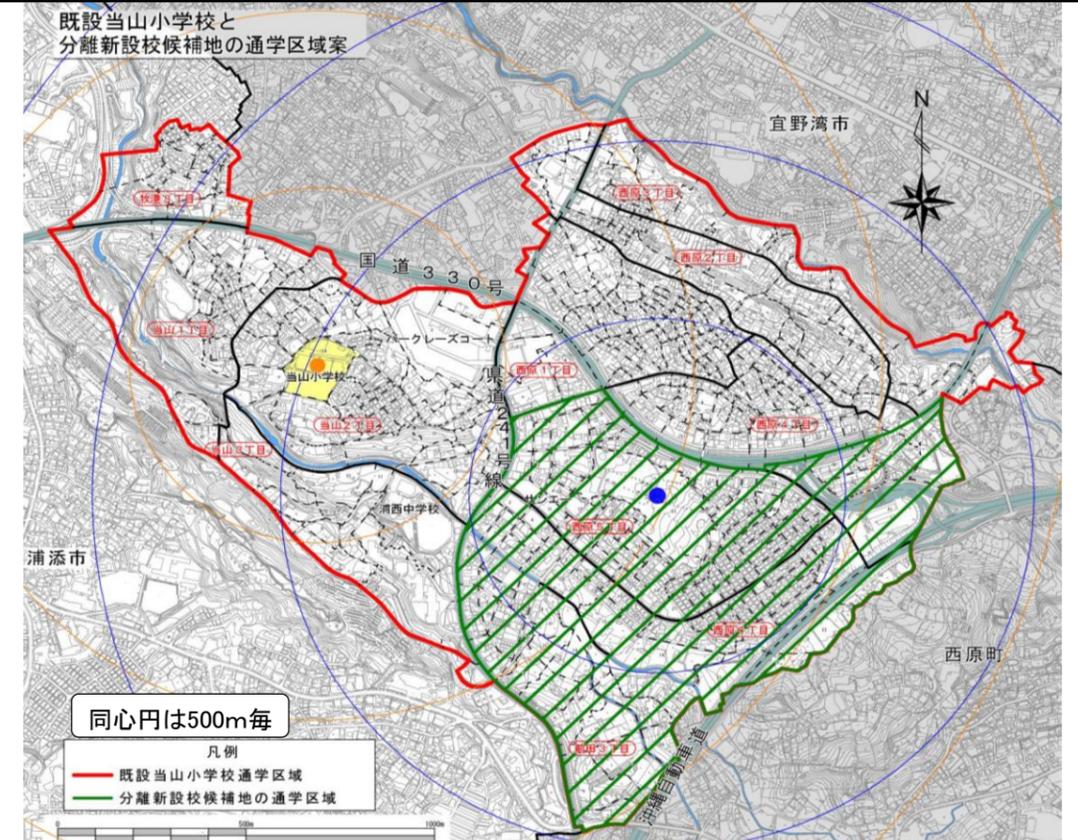


通学区域の比較

通学区域案(候補地①・候補地②)



通学区域案(候補地③)



学級数の推計結果

当山小学校における学級数の推移

推計年	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037
	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45	H46	H47	H48	H49
通学児童数	687	679	673	666	649	656	646	620	607	591	588	558	551	544	538	535	530	526	521	517
学級総数	27	28	27	27	26	24	25	25	23	23	23	22	22	21	21	21	21	21	21	21

分離新設校における学級数の推移

推計年	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037
	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45	H46	H47	H48	H49
通学児童数	434	429	469	520	585	620	639	646	658	660	640	639	623	605	580	554	530	512	496	485
学級総数	18	17	19	22	23	24	25	26	26	25	25	26	25	23	22	21	21	21	21	21

学級数の推計結果

当山小学校における学級数の推移

推計年	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037
	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45	H46	H47	H48	H49
通学児童数	725	716	709	699	684	692	685	656	642	624	617	581	572	564	558	554	550	548	543	539
学級総数	27	29	28	27	27	28	28	27	26	25	25	23	22	22	22	22	22	22	22	21

分離新設校における学級数の推移

推計年	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037
	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	H37	H38	H39	H40	H41	H42	H43	H44	H45	H46	H47	H48	H49
通学児童数	396	392	433	487	550	584	600	610	623	627	611	616	602	585	560	535	510	490	474	463
学級総数	17	16	17	21	23	22	24	26	26	25	24	24	23	22	21	21	21	21	21	20

評価項目	特筆事項		評価	特筆事項		評価
学校規模	当山小学校	分離新設校の開校時における学級数は【25】であり、当山小学校の保有する通常学級数【31】に対して空き教室は【6】となる。	◎	当山小学校	分離新設校の開校時における学級数は【27】であり、当山小学校の保有する通常学級数【31】に対して空き教室は【4】となる。	◎
	分離新設校	分離新設校の開校時における学級数は【26】となり、大規模校に分類される。また、浦添市内11小学校の保有する通常学級数の平均【26】と同規模となる。	○	分離新設校	分離新設校の開校時における学級数は【26】となり、大規模校に分類される。また、浦添市内11小学校の保有する通常学級数の平均【26】と同規模となる。	○
通学区域の安全性	当山小学校	大きな道路の横断は、牧港三丁目からの通学(国道330号の横断)と西原二・三・四丁目からの通学(国道330号や県道241号線の横断)による道路の横断がある。	△	当山小学校	大きな道路の横断は、牧港三丁目からの通学(国道330号の横断)と西原二・三・四丁目からの通学(国道330号や県道241号線の横断)による道路の横断がある。	△
	分離新設校	大きな道路の横断は、西原五・六丁目と前田三丁目からの通学(県道241号線の横断)による道路の横断がある。	○	分離新設校	国道330号や県道241号線などの大きな道路を横断することなく登校できるため、比較的安全である。	◎
通学距離	当山小学校	通学区域は当山小学校を中心に約1.9kmの範囲に収まる。通学児童数の多い西原地区は当山小学校から約1kmの場所に位置している。(直線距離)	△	当山小学校	通学区域は当山小学校を中心に約1.9kmの範囲に収まる。通学児童数の多い西原地区は当山小学校から約1kmの場所に位置している。(直線距離)	△
	分離新設校	通学区域は分離新設校を中心に約1.5km程度の範囲に収まる。通学児童数の多い西原地区は分離新設校から約0.8kmの場所に位置している。(直線距離)	○	分離新設校	通学区域は分離新設校を中心に約1km以内の範囲に収まる。また、通学児童数の多い西原地区は分離新設校から約0.4kmの場所に位置している。(直線距離)	◎
総合評価	分離新設校は当山小学校との距離が近いため通学距離や安全性への改善は期待できないが、当山小学校よりも高低差が低い場所に位置するため、徒歩による登下校の負担が減ると想定される。			分離新設校の通学区域内では大きな道路が横断することが無いため、通学路の安全は確保される。また、分離新設校を中心に1km以内で通学区域が収まるため通学距離は改善される。		

4-4 調査のまとめ

◆浦添市の人口動態の分析について

浦添市の人口は増加傾向にあるが、増加率は低下している。理由として、死亡数の増加による自然増加の減少傾向や若い世代の転出による社会減少が影響している。

若い世代の転出は、0～19歳の層は、就学を迎える子どもを持つ子育て世代の転出や、大学進学、就職が契機であると想定される。これは結果として、浦添市の生産年齢人口(15～64歳)の減少にもなる。

◆浦添市の人口推計について

浦添市の人口は、地域整備計画による人口転入が見込まれるため今後も増加傾向が継続すると想定される。特に、前田小学校区と沢岬小学校区の人口増加が見込まれる。

当山小学校の通学児童数は将来的に減少傾向にあるが、今後20年は過大規模校で推移していくことが見込まれる。同時に前田小学校が、てだこ浦西駅周辺土地区画整理事業と浦添南第一土地区画整理事業による影響で平成34(2022)年頃に過大規模に移行することが見込まれる。てだこ浦西駅周辺土地区画整理事業は主に、前田小学校との調整区域に位置しているため、人口増加のほとんどが前田小学校区へ影響する。そのため、調整区域を当山小学校区として扱い、分離新設校の開校により当山小学校と前田小学校への通学児童数を受け入れ、両校に影響する負担を軽減させる必要がある。

◆学校適正規模に関する検討について

分離新設校の開校による通学区域の検討を行う際には将来の児童数を考慮したうえで、当山小学校・分離新設校が適正規模を維持できる通学区域を提案する必要がある。

その前提のもと通学区域を設定すると、候補地①・候補地②について、分離新設校への通学は当山小学校との距離が近いこと通学距離や通学路の大きな改善は見込めない。しかし、当山小学校よりも高低差が低い場所に位置するため、徒歩による登下校の負担が若干改善される。

候補地③について、分離新設校を中心に1km以内で通学区域が収まるため通学距離が改善される。また、分離新設校の通学区域内では県道241号線の横断が無くなるため、通学路の安全性も改善される。

◆補足事項 1

沢岷小学校区は浦添南第一土地区画整理事業と浦添南第二土地区画整理事業による人口増加が見込まれ、沢岷小学校が将来的に 40 学級を超える可能性がある。そのため、沢岷小学校区の人口増加に備え、沢岷小学校の過大規模を解消する手段を検討する必要がある。

◆補足事項 2

牧港補給地区(キャンプキンザー)内には、小学校区がないため隣接する小学校区(港川小学校区、浦城小学校区、仲西小学校区、神森小学校区)に人口転入を等分配している。牧港補給地区(キャンプキンザー)の跡地利用による人口転入は平成 48(2036)年～平成 72(2060)年の 25 年間で、各校区に約 300 人の児童数の転入が見込まれるため、港川小学校、浦城小学校、仲西小学校、神森小学校は将来的に現在以上の学校規模になることが想定される。

そのため、隣接する小学校区に影響を及ぼさないよう牧港補給地区(キャンプキンザー)内に小学校の開校を検討する必要がある。